第11回 生涯学習セミナー

FEB 24（月/祝）2025

新大阪丸ビル別館

現地参加のみ

START 10:30

☆ 小児科医が外来でできる熱傷・外傷治療

福田弥一郎 先生（福田診療所）～12:00

昼食休憩　～12:40

☆ 突発性発疹の感染経路と臨床

井上佳也 先生（井上こどもクリニック）～14:10

☆ わかりやすい腸内細菌のはなし

久保田恵巳 先生（くぼたこどもクリニック）～

END 15:45

小児科医が外来でできる熱傷・外傷治療

突発性発疹の感染経路と臨床

わかりやすい腸内細菌のはなし

学会員 5,000円，非会員 7,000円

昼食（弁当）代含む

前登録／申込み（peatix）をお願いします。

https://peatix.com/event/4189634/view

日本外来小児科学会 生涯学習委員会

抄録集

「小児科医が外来でできる熱傷・外傷治療」
福田弥一郎（福田診療所）

私がこの15年間取り組んできた熱傷や小外傷の処置法、これは夏井睦先生が約25年前から実践されてきた「湿潤療法 http://www.wound-treatment.jp/ 」というものです。最初はとっつき難いと思われがちですが、子ども達のケガやヤケドに実に有効です。

15年前の私はケガの処置などしたこともない全くの外科素人でした。その私のところに、いつも来てくれる１歳児が高熱で来院。でも、その子は３度熱傷で、創感染による発熱だったのです。お母さんの話では、形成外科専門医から「皮膚移植をしないと治らない」と言われていると。ちょうどその頃私は湿潤療法を覚えようとしていたところ。夏井先生や岡田先生の助言を得つつ、おっかなびっくり見様見真似で取り組んで、本当に驚くほど綺麗に治りました。これ以後３０例以上の３度熱傷を治療してきましたが、全て特に大きなトラブルなく外科素人の私にも上皮化できています。

この処置法、やってみれば実は簡単。３度熱傷でも皮膚移植せずに上皮化できますし、小さなケガならテーピングのみで、ナートした場合より綺麗に治せるようになります。今回の講演では、全くの素人でも取り組めるように、湿潤療法の基礎から、処置の実際、被覆材の種類と選択、合併症や上皮化後の注意点など、実症例のビデオや本物の被覆材を使ってお話します。今回の講演を聞いて、少しの資材を揃えて頂ければ、もう明日から実症例が触れるようになる。それが目標です。私が習熟した全てをご披露したいと思っております。

「突発性発疹の感染経路と臨床」
井上佳也（井上こどもクリニック）

突発性発疹は、乳幼児期に発症し、時に熱性けいれんや脳症等を合併するが比較的予後が良好な疾患として知られており、国内においては1990年代から発症の高年齢化が進んでいます。

突発性発疹の主な原因は Human herpesvirus-6B（HHV-6B）です。HHV-6B は感染後、生体内で広い細胞向性を示し、他のヘルペスウイルスと同様に生涯にわたって潜伏感染します。感染者は発症数週後から唾液腺で複製したウイルスを唾液中に生涯にわたり排泄し続けるため、未感染者にとっては周囲にいる年長児や成人の多くが感染源になり得ます。感染経路を検討した報告は散見されますが、誰からどの時期に感染したかを知ることは難しいです。潜伏期間や発症間隔（一次感染者が発症してから二次感染者が発症するまでの時間）についての知見も乏しいのです。

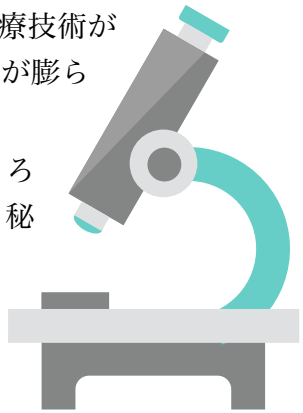
本講演では、突発性発疹の感染経路に関する知見とその限界を紹介します。発症の高年齢化の原因は何か、発症の高年齢化が小児の発達等にもたらす影響はないのか、発熱期に解熱後の発疹出現を予測する方法はないか等についても議論を深めます。

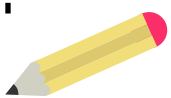
「わかりやすい腸内細菌のはなし」
久保田恵巳（くぼたこどもクリニック）

次世代シークエンサーの開発により、微生物の世界は、我々が今まで認知していたよりも、さらに奥深い景色があることが理解されるようになりました。しかし、その研究はまだ始まったばかりであり、新しい知見が日々更新され続けています。

本講演では腸内細菌について現在わかっている（とされている）事項と、今後期待できることについてお話ししたいと思います。全体像があと少しで明らかになりそうで、それが分かったら、飛躍的に医療技術が向上するはず！と興味が膨らむ分野です。

分かっていないところが逆に大いに可能性を秘めている魅力であることを、お伝えできるように鋭意努力いたします。





敬称略